

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## シンガポール、香港で景気拡大続く(Asia Weekly (8/9~8/13))

~インドの生産は伸びが鈍化も、拡大基調は続く見通し~

発表日: 2010年8月16日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

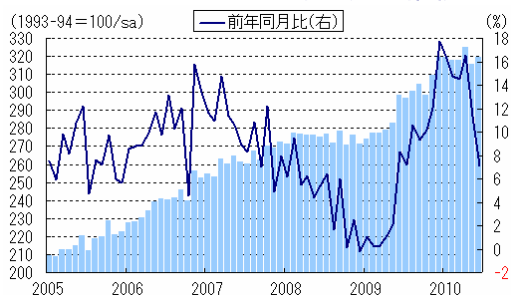
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/9 (月)	(台湾) 7月輸出 (前年比)	+38.5%	+31.0%	+34.1%
	7月輸入 (前年比)	+42.7%	+39.7%	+40.4%
8/10 (火)	(シンガポール) 4-6月期実質 GDP (前年比)	+18.8%	+19.3%	+16.9%
	(前期比/季調済)	+24.0%	+25.2%	+45.7%
	(フィリピン) 6月輸出 (前年比)	+33.4%	+25.0%	+37.3%
	(中国) 7月輸出 (前年比)	+38.1%	+35.0%	+43.9%
	7月輸入 (前年比)	+22.7%	+30.0%	+34.1%
8/11 (水)	(マレーシア) 6月鉱工業生産 (前年比)	+9.4%	+11.8%	+12.3%
	(中国) 7月消費者物価 (前年比)	+3.3%	+3.3%	+2.9%
	7月小売売上高 (前年比)	+17.9%	+18.5%	+18.3%
	7月鉱工業生産 (前年比)	+13.4%	+13.4%	+13.7%
	1-7月都市部固定資産投資 (前年比)	+24.9%	+25.3%	+25.5%
8/12 (木)	(韓国) 7月失業率 (季調済)	3.7%		3.5%
	(韓国) 金融政策決定会合 (政策金利)	2.25%	2.25%	2.25%
	(豪州) 7月失業率 (季調済)	5.3%	5.1%	5.1%
8/13 (金)	(インド) 6月鉱工業生産 (前年比)	+7.1%	+8.1%	+11.3%
	(ニュージーランド) 6月小売売上高 (前月比/季調済)	+0.9%	+0.5%	+0.4%
	(シンガポール) 6月小売売上高 (前年比)	▲4.9%	▲3.4%	▲3.5%
	(前月比/季調済)	▲0.7%	+0.5%	▲0.9%
	(香港) 4-6月期実質 GDP (前年比)	+6.5%	+6.3%	+8.0%
	(前期比/季調済)	+1.4%	+1.9%	+2.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【インド】 ~鉱工業生産は前年比で鈍化するも、前月比はプラスに転じる。今後も緩やかな拡大を予想~

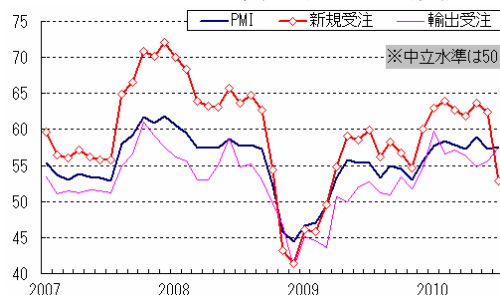
12日に発表された6月の鉱工業生産は、前年同月比+7.1%と前月(同+11.3%)から鈍化した。ただし、当研究所が試算した季節調整値では、前月比+1.2%と前月(同▲2.9%)からプラスに転じており、前月に大幅に下落した製造業がプラスに転じたほか、国内で輸出規制論が高まっている鉄鋼石をはじめとする鉱業部門では生産が大きく拡大した模様である。このことは、7月の製造業PMIが57.59と前月(57.26)からわずかに上昇したことにも現れている。ただし、生産の先行指標である新規受注は下落するなど、先行きは生産の減速が予想され、鉱工業生産の伸びは当面鈍化基調が続くであろう。なお、7月の自動車販売台数は堅調に推移し、二輪車販売台数も過去最高となるなど、内需は依然旺盛である。結果、物価上昇圧力が高まっており、7月に金融当局は2度の利上げを行うなど金融引き締めが進められているが、引き続き内需は堅調な拡大が続くと期待される。

図1 インド 鉱工業生産の推移



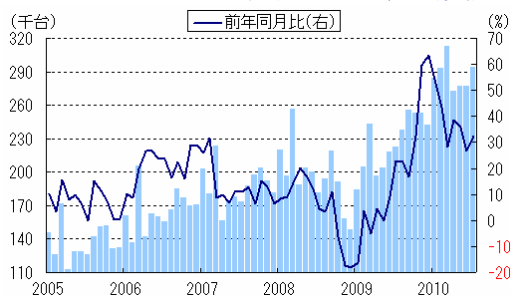
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 インド 製造業PMIの推移



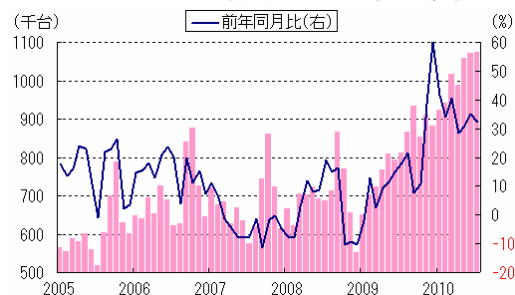
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 インド 自動車販売台数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 インド 二輪車販売台数の推移

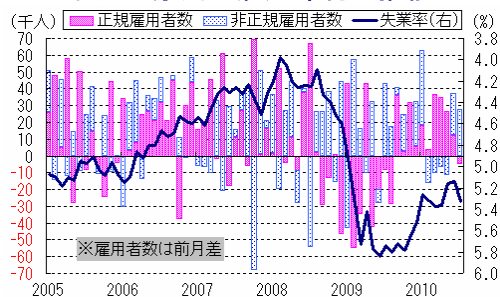


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [豪州] ～内需の頭打ち感が強まる中で雇用が悪化。当面は政策金利が据え置かれる可能性が高まる～

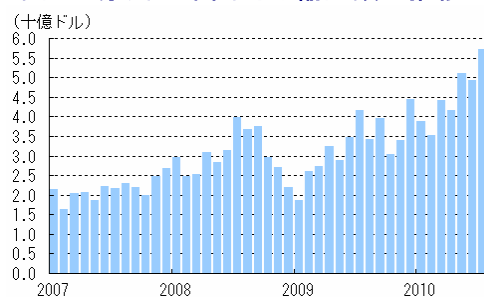
12日に発表された7月の失業率は5.3%と前月(5.1%)から▲0.2p悪化した。雇用者数は前月比+2.35万人増加し、特に非正規雇用者数は同+2.77万人と前月(同+2.52万人)に次ぐ大幅増となった一方、昨年9月以降増加が続いてきた正規雇用者は同▲0.42万人とわずかに減少した。また、失業者数は前月比+2.46万人と昨年初旬以来の高い伸びを示すなど、雇用環境に変調の兆しが出ている。鉱物資源需要の堅調を反映して中国向け輸出は7月も増加しており、鉱業分野における雇用環境は底堅いと思われる。一方、小売売上高は6月に前月比+0.2%と前月(同+0.2%)に続いてわずかな伸びに留まるなど、個人消費に頭打ち感が出ており、内需関連を中心に雇用調整圧力が窺われる。特に、同国では昨年秋以降累計150bpの利上げが実施されたため、足元では住宅建設許可件数が大幅に落ち込んでいるほか、堅調に拡大してきた投資物件向けの住宅ローン残高も減少に転じている。さらに、自動車販売台数も頭打ちとなるなど、高額消費に利上げの悪影響が生じている。今月3日に開催された金融政策決定会合では政策金利が3ヶ月連続で据え置かれたが、先行きの海外経済を巡る不透明感の高まりなどもあり、当面は現行水準で据え置かれる可能性が高い。一方、国際商品市況の高止まりなど物価上昇圧力を引き起こす懸念は燻っており、年内に利上げを再開させることも考えられる。

図5 豪州 雇用環境の推移



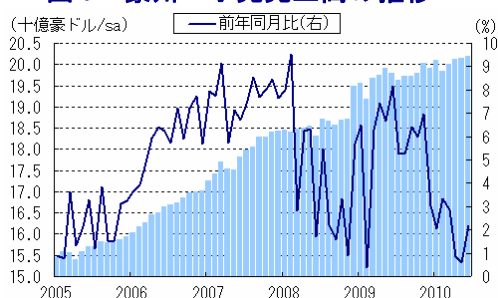
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 豪州 中国向け輸出額の推移



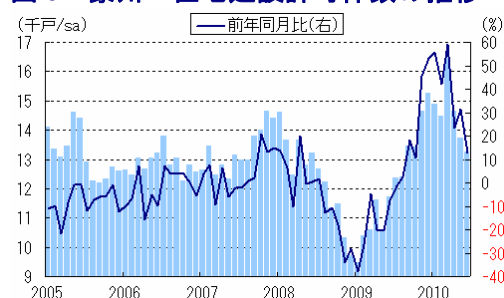
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 豪州 小売売上高の推移



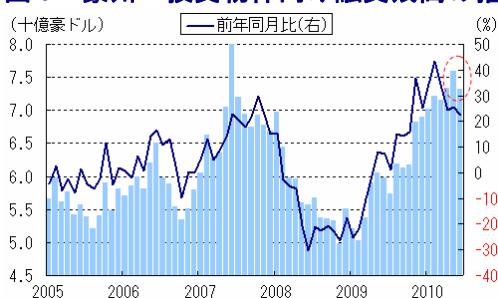
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 豪州 住宅建設許可件数の推移



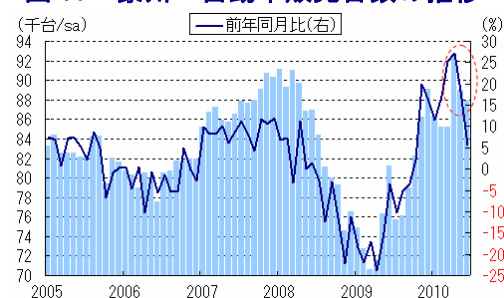
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 豪州 投資物件向け融資残高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 豪州 自動車販売台数の推移



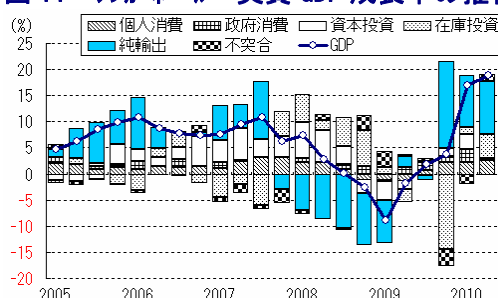
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール] ～好調なアジア向け輸出の拡大で4-6月期の成長率は前期比+18.8%に拡大～

10日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+18.8%と前期(同+16.9%)から加速した。前期比年率では+24.0%と前期(同+45.7%)から大きく鈍化したものの、2四半期連続で大幅な景気拡大を達成している。雇用環境の改善により個人消費が拡大したことに加え、公共投資も順調に拡大したものの、設備投資は一巡してわずかにマイナスとなった。また、アジア経済の好調を受けて輸出が引き続き大きく拡大したことも景気をけん引した。なお、先月発表された推計値では前年同期比+19.3%、前期比年率+26.0%とされていたが、その後に発表された6月の鉱工業生産が前月比▲23.4%と予想外に減速したため、下方修正が予想されていた。

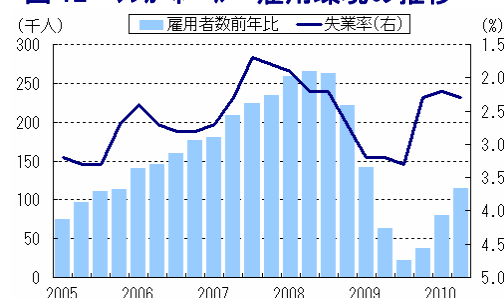
13日に発表された6月の小売売上高は、前年同月比▲4.9%と前月(同▲3.5%)からマイナス幅が拡大し、前月比も▲0.7%と5ヶ月連続で減少した。名目ベースの売上減少の背景には、SGドルの急激な通貨高によって輸入物価が下落し、消費者物価が下落していることも影響している。なお、6月の実質小売売上高は前年同月比▲6.3%とマイナスであるが、前月比では+0.3%となっている。

図11 シンガポール 実質 GDP 成長率の推移(前年比)



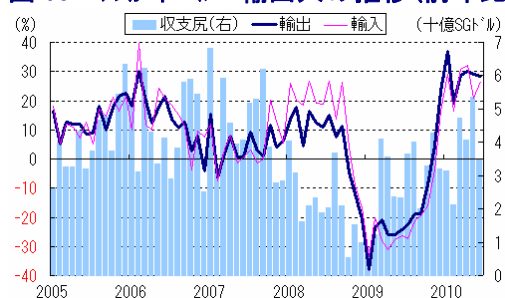
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 シンガポール 雇用環境の推移



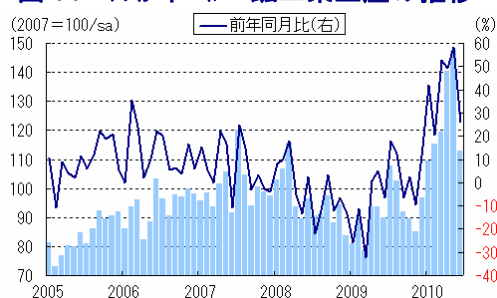
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 シンガポール 輸出入の推移(前年比)



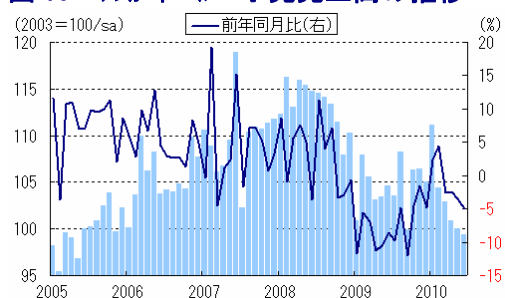
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図14 シンガポール 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図15 シンガポール 小売売上高の推移



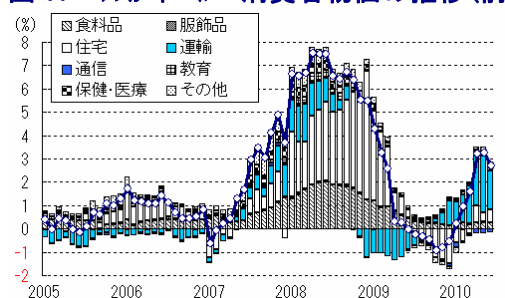
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図16 シンガポール 為替相場の推移(対米ドル)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図17 シンガポール 消費者物価の推移(前年比)

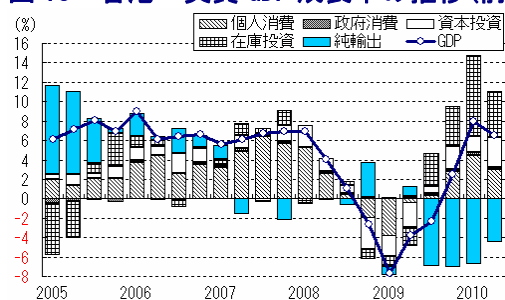


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港] ～アジア向け輸出の堅調、本土からの旅行客の流入を受け、輸出が景気をけん引～

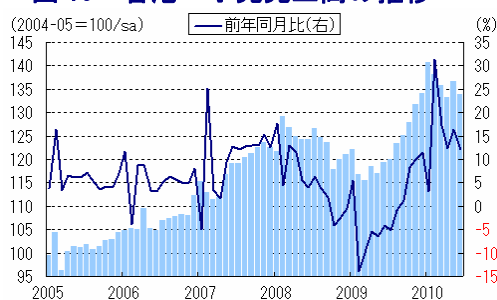
13日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.5%と前期(同+8.0%)から鈍化したものの、前期比+1.4%と5四半期連続のプラス成長となった。本土からの旅行客の堅調を受けて小売売上高が盛り上がっているほか、公共投資で雇用悪化に歯止めが掛かり、個人消費や政府消費が景気をけん引した。また、中国をはじめアジア経済の好調で輸出が拡大したほか、本土からの旅行客の増加でサービス輸出も増加しており、景気を大きく押し上げた。

図18 香港 実質 GDP 成長率の推移(前年比)



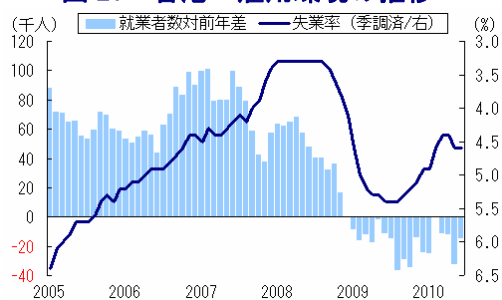
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図19 香港 小売売上高の推移



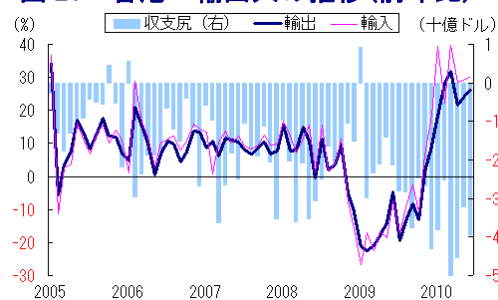
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 20 香港 雇用環境の推移



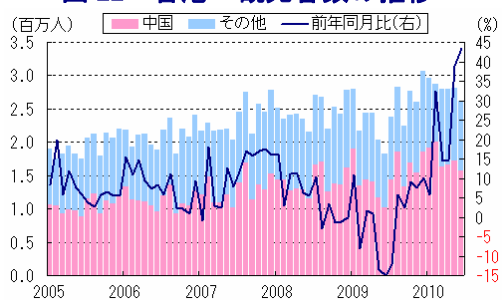
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 21 香港 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 22 香港 観光客数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上